

## 第13回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会 会議録

日時：平成23年11月30日（水）17：30～20：00

場所：鎌倉市役所 第2委員会室

出席：中根副委員長、鷺尾委員、牧田委員、藤川委員、久能委員、御法川委員、岩田委員

事務局：小磯市民経済部長、福谷市民経済部次長、服部観光課長、宮下観光振興推進担当課長、小林課長補佐、荻田主事、渡邊主事

傍聴者：2名

オブザーバー：社団法人鎌倉市観光協会事務局長及び職員

### 議事

- 1 委嘱状交付
- 2 市民経済部長あいさつ
- 3 委員等紹介
- 4 委員長、副委員長選出
- 5 審議
  - (1) 鎌倉市の観光事情
  - (2) 第2期鎌倉市観光基本計画中間見直し

以下、会議の概要は要点筆記。

### 審議事項（1）鎌倉市の観光事情

委員：9ページの実績概要については、前期5年間を踏まえたものであろうと思うが、その結果としてどのようなようになったのか、着手してどうなったという記述が足りないのではないかと。状況は理解できるのだが、その先が見えてこない。

委員：地域資源115件というのはどんなものであるかわからないので、具体的記述が必要。

副委員長：地域資源の例示が必要なのではないかと。今回の中間見直しの時点で前半期の総括をすべし。

委員：今年の東日本大震災の影響で外国人来訪者は激減しており、今後も外国人を呼ぶのは厳しい状況。観光をとりまく状況が大きく変わっていることを記述すべきでは。

事務局：前期 5 年の総括については中間見直しにおいて記載されているところ。したがって本年度版の評価書には記述はしていない。取り組み内容については、取り組んだ結果どうなったかまで記述することとする。

副委員長：震災のインバウンドへの影響については短期的にかなりあるが、国を挙げて安全キャンペーン、日本文化の発信等の取り組みは行っているところ。現実的な短期的取り組みとして、国内観光の振興も打ち出すべきで、日帰りから宿泊へのシフトや観光客の安全管理という項目が出てきているのもそれを踏まえたもの。基本計画の中でインバウンドについては特出ししているところである。

委員：本年の実績は厳しいと思うが、国を挙げての取り組みがなされているのを理解した。また、震災の影響については、2 ページに記載があるので結構。

副委員長：6 ページの記述において、外国人の誘致は日本人が伸びないからという理由からだけではなく、ポジティブに世界遺産としての鎌倉をもっとアピールすべき。誘客にふさわしい資源はあるはずなので、どんな資源で誘客するか定性的な理由を入れること。

委員：東京ステイの外国人で、京都まで行けない人がいるが、鎌倉はそれらの人にとっても、すぐに来やすい場所である。全体のトーンとして、インバウンド重視の流れはいいと思うが、外国人誘客に対する具体的施策がみえない。外国語版パンフレットだけで足りているのか。外国人による交通機関の使用は困難であると思われ、多分にバスの使用は。日本人がいないと無理だと思われる。今後の課題として入れてもらいたい。観光課の事業概要において、観光案内業務の充実や鎌倉ガイド協会との連携とあるが、その他の団体との協調も記述すべきではないか。市民が観光客に対し結果的に案内する場面も多い。

委員：イベントの実施においてガーディアンズの存在は大きい。このような団体についてどこかに書き加えることができるならば、彼らとしてもほりがあるのでは。

委員：確かに励みになる。

副委員長：人材ネットワークの構築の部分で記述するのがよいのでは。

委員：ワークショップというものは何か。

事務局：資源調査の際に市民の方々に参加していただいたものである。

委員：観光協会の5か国語ボランティアガイドの記述もあった方がよいのでは。

事務局：新しく設置された鎌倉市観光基本計画推進協議会の中にそれぞれの団体に参画いただき協議を進めているところ。これらの団体の名前を入れるというのはどうかという考えもある。しかしながら、一つ一つの団体を拾っていくというのは難しいのではないか。

副委員長：困難があるのであれば、例えば〇〇等という記述振りにしてほしい。

委員：具体的にはどういうものが115の観光資源なのかわからない。

委員長：具体的な例示をしたいと思います。

委員：国際部会以外は開催されていないので、書きぶりがあるのではないか。

事務局：部会として、当面の機能は果たしたと考えられるため、開催しなかったのは確かだが、記述振りについては変えることとする。

## 議題2 鎌倉市観光基本計画中間見直しについて

副委員長：今回の中間見直しについては、前期5年の実績を踏まえての変更であることを念頭にご議論願いたい。

委員：3つの目標に加え、安全安心にかかる項目を追加すべきではないか。誘客には欠かせない要素である。13ページに外国人数の伸びについて記述されているが、東日本震災の影響があるのに大丈夫なのか。

事務局：観光振興推進担当課長：目標年である平成27年をターゲットとした数字なので、達成できるものと考えている。

副委員長：方針4の中で災害対応を含めた書き振りとするべきである。外国人数に関しては、必ずしも海外から来ている客とは限らない。日本に駐在している者の訪問数も含めてやれば法外な数字ではないと思われる。

委員：世界遺産登録の推薦を踏まえて、施策を打っていくべきであるところであるが、

実際の予算の実弾がないと実効性に乏しい。予算に関する具体的記述が必要なのではないか。そうすれば具体的にイメージがつかめる。

事務局：市民経済部長：観光客が来訪して幾ら落とすという試算はできるが、それがどれだけ観光振興のための予算に振り向けられるか。市役所の中で主張はしているが、なかなか現実化しない。経済波及効果を含めての説明でも理解を得られない。生の数字は難しいが、これだけ来訪者があるのであるから、予算の使い方は考えるべきではないかとの記述を加える

委員：世界遺産になってから動くのではなく、そこに向けての準備を前倒しでやっていくことこそが国際観光都市としての責務である。

事務局：後期実施計画の中で、観光分野においてはハード整備について積極策に出て行く所存。今後、サインの関係やパンフレットについても準備していく。高山市は14ヶ国語で用意している。外国人対応は着実に進めているところであるが、引き続き検討させていただきたい。

副委員長：自治体の財政はどこでも厳しい。観光基本計画は鎌倉市全体で取り組んでいこうという計画なので、観光庁のみならず他省庁の支援策も講じて進めていくことが必要である。神奈川県としても応援してくれるものと思う。行政だけでなく協会・民間を含めた体制作りがポイントになるのではないかと思う。

委員：予算の問題はあるにせよ、県との協力関係があれば何かできるものはあるのではないか。ハイキングコースの茶店付近のゴミ処理は、県、市、民間が協力し解決した問題。世界遺産で注目されるので、いろいろと協力できる機会が増えるのではないか。外国人は小町通に来ているわけではなく、静かなお寺、ハイキングコースなど静かなところに来ている。25ページのハイキングコースの安全対策は進めるべきである。人命にかかわることであり、新聞に騒がれると鎌倉のイメージダウンとなってしまう。

事務局：我々としても人命を最優先で考えているところ。後期実施計画において要求しているところであり、24年度で整備箇所を決定し、25年度から実施に移すこととしている。

委員：市でできないところはNPO等の活用も図るべき

委員：7ページの図は鎌倉らしくて良い。各主体が取り組むというなかで、市民団体を中心に据えているのは鎌倉らしい。自分は厚木市の観光計画の策定委員でもあるが、市民団体が行っている各種の活動が実際に観光に関係することが多々ある。例えば、自然観察会は観光と思ってやっているわけではないが、実際には観光資源になりうる。実はこの計画の中では市民団体の活動に関する記述が少ない。14ページで市民活動がどれだけされているかなど、新しい取り組みが記述できないか。5ページの提言においても、市民が楽しめる観光の重要性等が文章に盛り込まれていない。他地域との交流事業というのも観光のキーとなるものではないか。

委員：軽井沢町の来訪者数は年間700万人であり、人口比からするとかなりの数となる。清らかな観光都市を標榜しており、静かなところを求めのお客さんが多い。そのため、規制がたくさんある。また、平泉も景観保護のための厳しい規制がある。鎌倉で一番見直すべきは小町通の雑多なところ。建物の意匠や看板がごちゃついている。景観保護にもっと力を入れていかないと世界遺産登録も難しい。景観法により対応しているのであろうが、機能していないのではないか。市民団体の取り組みも評価されるべきで、どこかに入れてもらいたい。また、26ページの交通の問題は避けて通れない、車の規制を進めないといけなかったのではないか。ロードプライシングやパーク&ドライブを推進すべき。これ以上の入れ込み客の増加に耐えられないのではないか。方針4に安全安心、災害時の避難誘導に力を入れるという記述の追加をお願いしたい。

事務局：中間見直しにあたり、基本計画の基本型は守りつつ見直しを進めていくという方針は堅持して行きたい。景観や交通の具体的政策については実際の実施計画は原課がやっている。方針4の表現振りについては了解した。

委員：個別の事業内容について記載されている表の中で、フィルムコミッションの欄を削除とされているところが非常に残念という思い。鎌倉においては、町おこし感覚のFCならいいということだと思うが、通常のフィルムコミッションではなく、鎌倉として様々な紹介すべきものをきっちり発信していくようなものとしたい。情報の垂れ流しのような状況を防ぐために、受け入れるためのワンストップ組織が必要なのではないかと考えている。そのためにも、観光協会においてつくらなければならないと思っている。この項削除ということは残念。ワンストップ化が図れていない現状において、窓口一元化はぜひ必要なのではないか。メディアプラットフォームとかメディアに対する窓口が鎌倉に欠けているものと思っている。経産省のメディア事業は有償でサービスを行う

機関でもできるので、補助金の掘り起こしもできるのではないか。

事務局：FC協会の定義によるFC設立における目的は、新しい観光地の発掘ということなので、鎌倉にはそぐわない。シティプロモーションという形であれば、現在全庁的に検討を進めているところ。FCという型をとるとなると無償によるサービス供与となるので運営は困難なのではないか。

副委員長：FCをどうのこうのという話ではないのではないかと。ある種の映像の資産管理とコントロールは必要ということか。例えば、目標3のところ、連携して進めていく情報発信・管理を担う組織をひとつのミッションとして書くのもよいのではないかと。

委員：現在、メディアコントロールができていない。現状の旅番組は、きちっとまとまったものではない。キョンキョン、中井貴一ではなく、小津監督クラスの作品といった次の世代に残るもののサポートをしていく。横浜はシティプロモーションの一環としてFC業務を行っている。鎌倉は特にサポートしなくても安易に撮影できるきらいがあるが、結局安易なものに流れていく。上質な印象に残る映像を撮ってもらうためにも支援窓口は必要なのではないか。

副委員長：21ページに映像文化事業の支援組織を立ち上げるという記述は、FCの項目削除と矛盾があるのではないかと。映像対象が鎌倉にふさわしくないという判断ができる組織が必要なのではないか。

委員：いろいろなメディアが毎週のように撮影に来ている。鎌倉における撮影の「作法」について伝えることができる組織を設け、ここに問い合わせして、撮影作法をしっかりと確認したうえで撮るということが重要。

事務局：自分が欲するものを撮る権利は誰にでもある。ここはこう撮れとか撮るなどか言うことはできない。市のHPに、観光客に対する鎌倉における場面場面での過ごし方に関しどうすべきかという望まれる「作法」については述べている。映像会社に対してもこうした方法で周知することはできるのではないかと。

委員：たとえば、ここを撮りたいと言うときには、ここは小さな路地なのでみなさんにお断りしてから撮ってくださいという事前説明をすることが目的であり、事前検閲をするための組織ではない。撮影者が不調法な振る舞いをしないような指導をする機関である。

- 委員：ガイド協会等がそのような指導を行っているところも多いのではないかと。
- 委員：データベースを構築して、映像に関する情報を持っている機関があれば非常に有益なのではないかと考えているところ。情報の蓄積があるメディア・プラットフォームが必要であり、横浜においては存在している。このようなプラットフォームがないのは、世界遺産になろうというのにお粗末なのではないか。FCの項を削除するなら、どこかで類似組織の必要性の記述をしてほしい。
- 委員：「鎌倉ルール」の周知については、観光客のみならず、取材者に対しても情報提供していくことが必要。
- 委員：7ページの取り組みイメージが具体的にどう動いていくのか。鎌倉は宗教都市なので、宗教と観光は切り離せないし、観光を横串にして取り組んでいく組織が重要。
- 委員：今後増やしたい客は外国人ということであるが、きれいな街の実現がなされれば、住民の反対もなくなる。つまりは安全で静かで快適な町という「静か」という要素が重要。14ページの実施主体の表もしかりで、本当に望まれているのは静かで安全できれいな街の実現であり、町美化のPRをしていくことも重要。そうすれば観光客と住民が一体となる。
- 委員：本当に来て欲しいのは子供の世代である。日本の文化・歴史を意識してもらえぬ地は鎌倉であると思う。
- 副委員長：次世代を担う子供、海外からの誘客の重要性に対しては同じ意見である。そういった人々が全部静かな雰囲気を求めていると言うわけでもない。きっちりしたメリハリが必要なのではないかと思う。
- 委員：観光客は来ないでくれとか、観光客は敵であると言う意見も多い。
- 委員：25ページのトイレの協力店制度の実施について、トイレの提供はしませんと言う店舗が多いと思われるが、実現の可能性はあるのか。
- 委員：新たな施設を作るのは予算がかかりすぎるので、提供についてこれまでお願いしてきているところである。民間のトイレをお借りするのに当たり、水・紙代等をお支払いすることとしており、準備を進めているところである。

副委員長：提供してもよいという店があるのであれば、協会で地図にプロットしてあげればいいのではないかと。

委員：市がお願いして実施するというよりは、商工会議所、観光協会等、民の発意で民にやってもらうという方がスムーズに進むのではないかと。15ページの図における協議会の下部に位置する検討部会は、個別事項を横断的に考える部会であることがわかるようなものとすべき。

副委員長：みんなで作る、しかも、全員一致というのは難しい。わかりやすい体制図とされたい。

委員：推進協はバックアップの機関であることが望ましい。次回の宿題として、北鎌倉の案内所の整備のことについて聞きたい。また、先般開催された食のシンポジウムにおいて市長がやると言っていた食に関するイベントの件についてもお願いしたい。

事務局：北鎌倉の件については基本計画の中で記述がある。「食」については、観光のひとつのテーマとして総合的に考えていきたい。

本日、議論していただいた内容を会議録にまとめるので、委員の皆さんには発言内容の確認をお願いします。

以上